

2024年度 環境経営レポート

対象期間：2024年 4月～2025年 3月



 **ホロン精工株式会社**

作成日：2025年 5月 20日

改訂日：2025年 8月 22日

はじめに

当社は平成元年の創業以来、プラスチックのリサイクルに不可欠な粉碎機・破砕機・空冷式造粒機などを独自の技術で開発し、資源の有効利用に貢献しています。環境活動と環境にやさしい製品開発・ものづくりを通じて、地球環境保全のお役に立ちたいと願っております。

企業理念

役に立ち喜ばれる製品をより多く提供して社会に貢献する。
独自の技術を追求して存在感のある企業活動を展開する。
健全な財務体質を追求して永遠に存続する企業を目指す。
明るい職場環境と創造力が豊かで向上心に溢れる人材を育む。
柔軟な思考と自律的行動をもって絶えず変革する土壌を培う。

環境経営方針

基本理念

ホロン精工株式会社は、「役に立ち喜ばれる製品をより多く提供して社会に貢献する」また、「独自の技術を追求して存在感のある企業活動を展開する」の企業理念のもとに、資源リサイクルを目的とした粉碎機・破砕機・プラスチック造粒機などの製造・販売を通じて、地球環境保全の一端を担う事業を運営していると自負しています。

しかし、この事業活動を漫然と継続した場合に、環境負荷を増大させる一面がある事を認識し、地球環境の保全と社会への貢献を目指して活動します。

行動指針

1. 環境管理システムを構築する
 - ① 体制を整備し、活動の役割を全社員にて分担する
 - ② 環境保全に関する社内諸規定を制定し順守する
 - ③ PDCAサイクルを基本として継続的に活動する
2. 事業活動における環境負荷を継続的に削減する
 - ① エネルギー消費量、資源消費量を削減する
 - ② 廃棄物の排出を抑制し、リサイクル化を推進する
 - ③ 化学物質の使用量を抑制し、適正管理を徹底する
3. 環境に関する法規制等を順守する
4. 環境保全のために有用な製品の開発を推進する

制定日：2018年 5月 18日

代表取締役 **山崎 純生**

組織の概要

社名 ホロン精工株式会社
 代表者 山崎 純生

所在地 本社・工場
 〒389-0822 長野県千曲市大字上山田 3813番地191
 電話：026-276-0323(代) Fax：026-275-6284
 URL：https://www.holon-seiko.co.jp/

連絡先 環境管理責任者 山崎 純生
 環境推進委員長 藤岡 雄一
 電話：026-276-0323(代) Fax：026-275-6284

事業内容 プラスチック加工機械・同付属装置の製造・販売
 主要製品 粉碎機・破砕機・プラスチック造粒機

創立	1989年3月23日	従業員	15 名
資本金	10 百万円	延べ床面積	1,172 m ²
		事業年度	4月～3月

認証・登録の対象組織 ホロン精工株式会社



アクセス



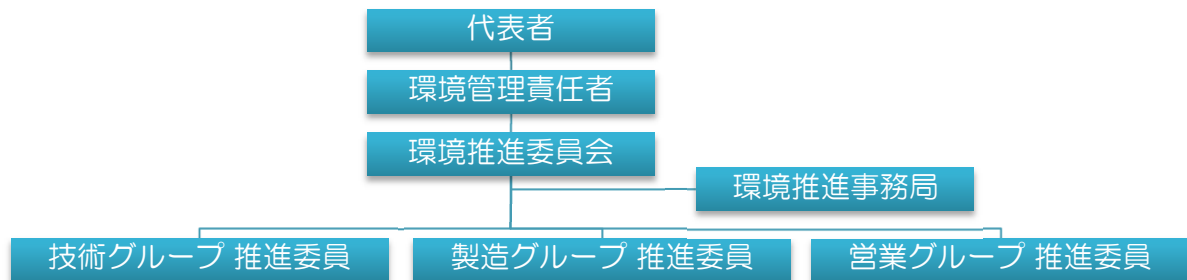
長野市方面から

国道18号線より信号「戸倉上山田温泉入り口」を右折
 → 万葉橋を渡り、信号「上山田文化会館前」を左折
 → 信号「千曲市上山田庁舎前」を左折
 → 西友 上山田店様のある交差点を左折
 → 突き当りを右方向へ進んでいただくと
 左手に当社がございます

上田市方面から

国道18号線より信号「田町」を左折
 → 坂城大橋を渡り、信号「村上」を右折
 → しばらく進み、西友 上山田店様のある交差点を右折
 → 突き当りを右方向へ進んでいただくと
 左手に当社がございます

実施体制図及び役割・責任・権限表



担当	役割・責任及び権限
代表者	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な要員、設備、費用、時間、技能技術者の準備 - 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境活動レポートの承認 - 全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表の承認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境推進委員会	- 環境活動計画の審議 - 環境活動実績の確認・評価 - 従業員に対する教育訓練の実施
環境推進事務局	- 環境推進委員長の補佐、環境推進委員会の事務局 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成・最新版の管理及び順守評価 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
環境推進委員	- 環境活動計画の実施及び達成状況の報告 - 問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 自主的・積極的な環境活動への参加

環境目標 及び 実績値と評価

※ 評価基準：目標達成 = ○, 目標未達成 = ×

年度 項目			2013年度	2024年度		2025年度	2026年度
			基準年度 実績値	目標	実績値 評価	目標	目標
排出量の削減 二酸化炭素	電力使用量の削減	kWh	68,179	49,089	45,320	48,407	47,725
		千円(税抜)	1,381		1,226		
		kg-CO ₂	32,862	23,661	21,844	23,332	23,004
		基準年度比	-	-28%	○ (-33%)	-29%	-30%
	自動車燃料使用量の削減	ガソリン L	689	496	539	489	482
		軽油 L	17,509	12,607	14,976	12,432	12,257
		千円(税抜)	2,527		2,365		
		kg-CO ₂	47,550	34,236	40,553	33,761	33,285
		基準年度比	-	-28%	× (-15%)	-29%	-30%
	灯油使用量の削減	L	3,521	3,169	2,643	3,134	3,098
		千円(税抜)	363		314		
		kg-CO ₂	8,774	7,897	6,586	7,809	7,721
		基準年度比	-	-10%	○ (-25%)	-11%	-12%
	二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	89,187	65,998	68,984	65,107	64,215
		基準年度比	-	-26%	× (-23%)	-27%	-28%
二酸化炭素排出量係数(調整後) : 0.482 (kg-CO ₂ /kWh) 中部電力 2015年度							
排出量の削減 廃棄物	一般廃棄物の削減	kg	2,740	1,973	1,510	1,945	1,918
		千円(税抜)	44		75		
		基準年度比	-	-28%	○ (-45%)	-29%	-30%
	廃油の削減	kg	1,980	1,228	1,260	1,208	1,188
		千円(税抜)	77		44		
		基準年度比	-	-38%	× (-36%)	-39%	-40%
の使削減 用水減量	節水	m ³	104	104	99	104	104
		千円(税抜)	15		15		
		基準年度比	-	現状維持	○ (-5%)	現状維持	現状維持
削減の 物質の化学	有機溶剤使用量の削減	L	629	566	362	447	440
		千円(税抜)	358		272		
		基準年度比	-	-10%	○ (-43%)	-29%	-30%
購入 グリーン	事務用品のグリーン購入推進	グリーン商品比率%	41	-	27	-	-
		基準年度比	-	-	-	-	-
の製配 環境へ	有害物質含有量の少ない製品設計	有害物質含有部品比率 %	0	0	0	0	0
		基準年度比	-	現状維持	○	現状維持	現状維持

コメント

7項目中、2項目で目標未達成となった。

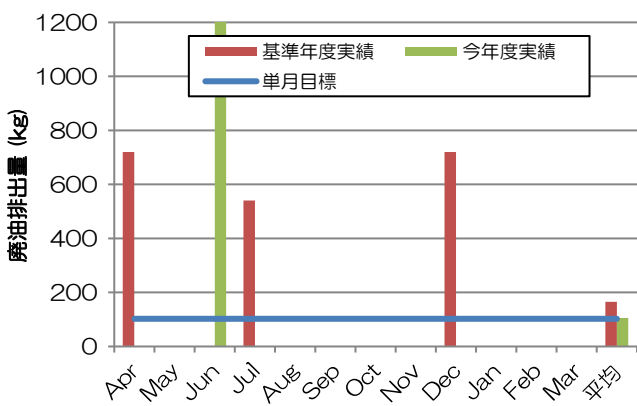
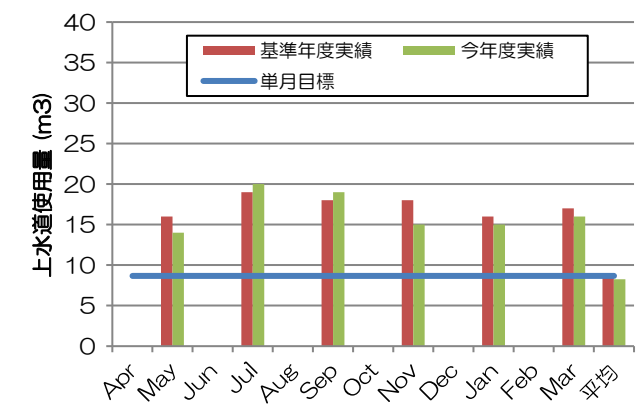
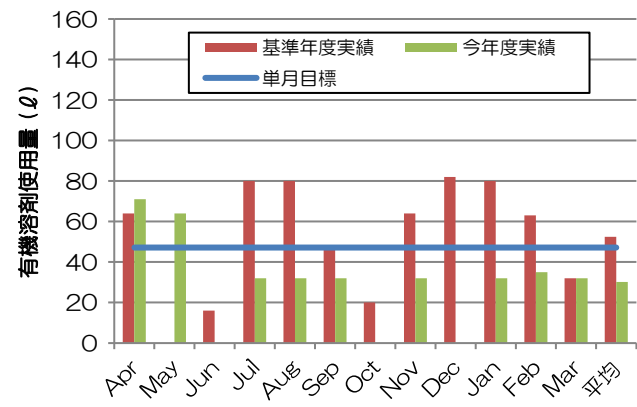
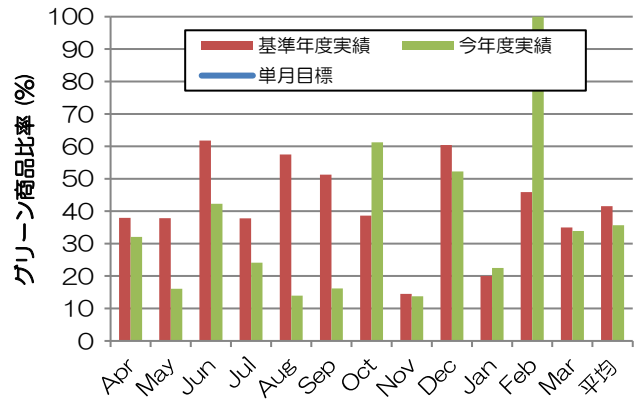
自動車燃料は、前期比でも14%増と大幅な増加となった。要因として、遠方（東北、中国、四国地方）への出張修理対応が続いたこと、製品不具合発生による出張対応が重なったことなどが考えられる。営業や納品も含めて、遠方への出張の際には、効率的な旅程を改めて検討する。

低圧塗装ガンの導入により、有機溶剤は大幅に削減できた。今年度の実績を踏まえて、次年度の目標値を引き下げる。

環境活動計画と取組結果

※ 評価基準：目標達成 = ○, 目標未達成 = ×

今年度の取組計画	結果と今後の取組	評価	実績
電力による二酸化炭素排出量の削減			
- 空調温度の適正化 (冷房28℃, 暖房20℃) - 不使用時のこまめな電源OFF (工作機械, 照明, パソコン) - バッテリー充電の運用方法を検討	目標を達成できた。単位売上当たりの実績値は適正なレベルにあると考える。 継続実施	○	二酸化炭素排出量 (kg-CO₂)
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
- 効率的ルートでの営業・納品 - 製品不良ゼロ - オンライン営業の推進 - 車両運用の取決めやルールを明示して徹底	目標を大きくオーバーした。11月は四国へ2回と東北の出張が重なったため増えている。11月に3t車を更新したので、今後の燃費改善に期待したい。 継続実施	×	二酸化炭素排出量 (kg-CO₂)
灯油による二酸化炭素排出量の削減			
- 室温管理による暖房設定 - 暖房のこまめな電源OFF - 暖房器具運用の取決めやルールを明示して徹底	目標を達成できた。防寒作業着を導入したこと、暖房のこまめなOFFを徹底したことによると考える。 継続実施	○	二酸化炭素排出量 (kg-CO₂)
一般廃棄物の削減			
- 分別の徹底 - 仕入先との協力による簡易包装・簡易梱包の推進 - 通い箱など梱包資材の改善 - コピーの裏紙利用 - マイボトル持参を奨励	目標を大きく達成できた。取引先との部品輸送の通い箱化、取引先による梱包資材の引取りが進んだことによると考える。 継続実施	○	一般廃棄物排出量 (kg)

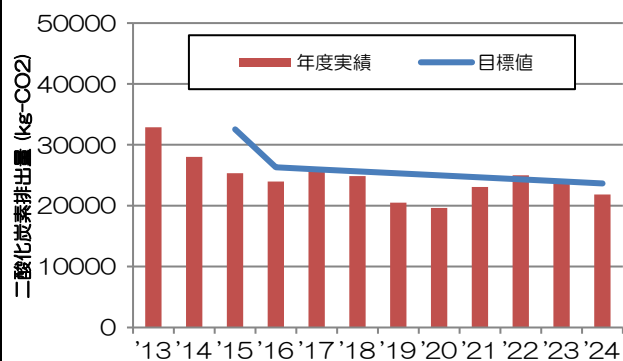
今年度の取組計画		結果と今後の取組	評価	実績	
廃油の削減			×	廃油排出量 (kg)	
- 適切な切削油の管理による交換頻度の削減 - 恒久的な切削油の腐敗防止対策を検討 - 真鍮、砲金の切粉が切削油へ混入しない工夫	目標をわずかにオーバーした。 前年度分と合わせて6月に処分したため増加した。 継続実施				
節水			○	上水道使用量 (m3)	
- 節水ポスターの掲示 - 洗濯機運用の取決めやルールを明示して徹底	目標を達成できた。 例年とほぼ同水準で推移している。 現状維持に努める。 継続実施				
有機溶剤使用量の削減			○	有機溶剤使用量 (ℓ)	
- 塗装工程の効率化と歩留向上 - 保管量の適正な管理 - 希釈計量管理徹底 - パルスエアガン、キャスト塗装台、塗装用作業着を試験導入	目標値を大幅にクリアできた。 低圧塗装ガンの効果が大きい。 次年度の目標値は中期計画よりもさらに引き下げる。 継続実施				
事務用品のグリーン購入推進			-	グリーン商品比率 (%)	
事務用品のグリーン商品購入比率を確認	データ集計のみ				

※ 基準年度は2013年度

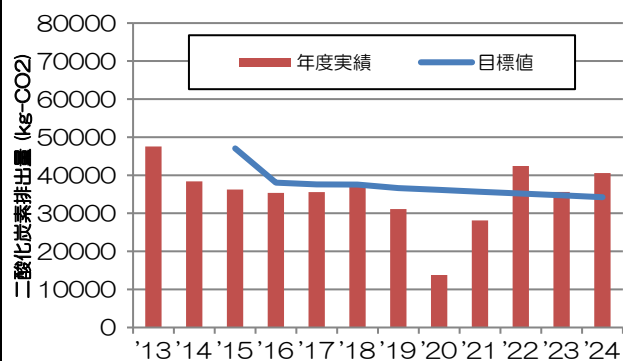
実績値の推移

※ 2013年度は基準年度のため、2014年度は
試行期間のため、目標値の設定無し

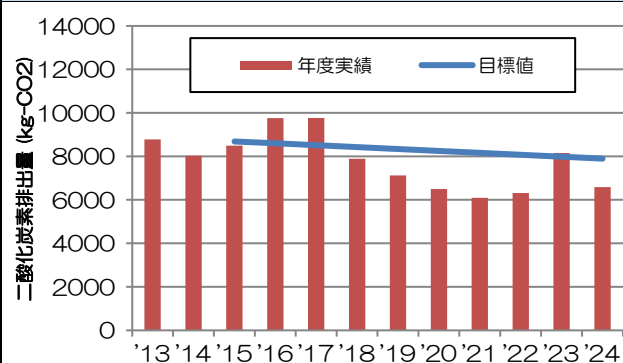
電力による二酸化炭素排出量



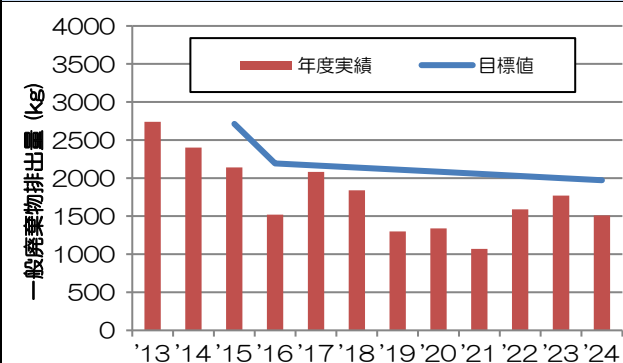
自動車燃料による二酸化炭素排出量



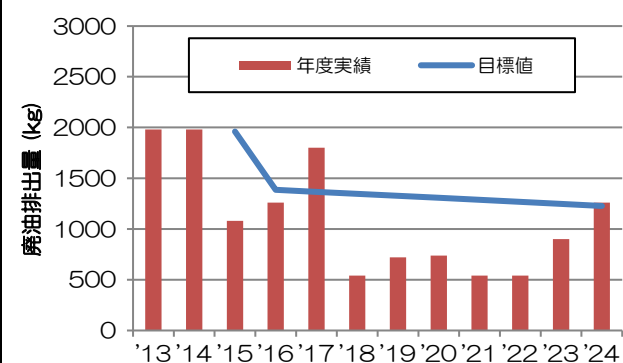
灯油による二酸化炭素排出量



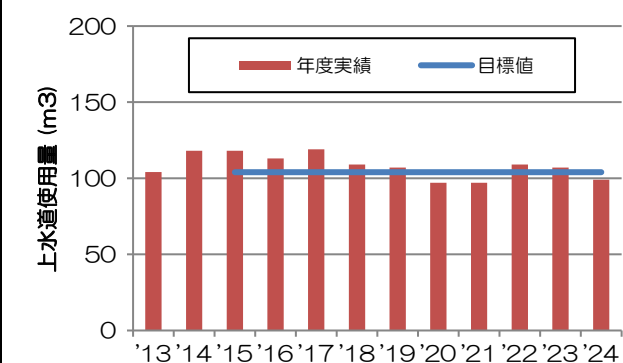
一般廃棄物



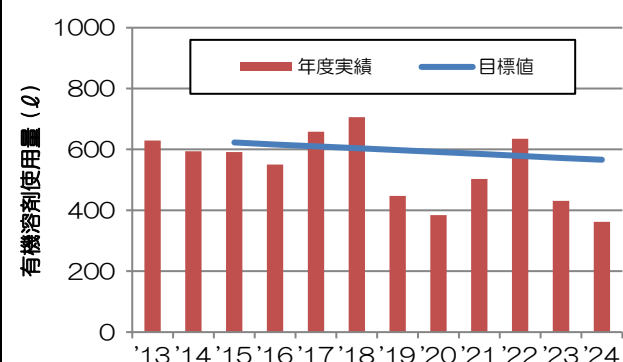
廃油排出量



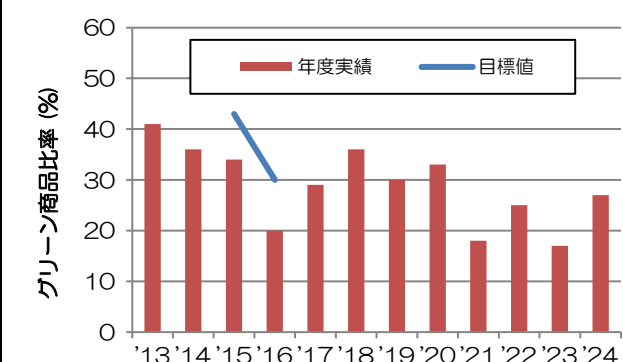
上水道使用量



有機溶剤使用量



事務用品のグリーン購入



今年度の取組事例

低圧塗装ガンの導入



<従来の課題>

高圧で塗料を吹き付けるため、飛散する量が多く、塗料の消費量が多かった。また、塗装粉が大量に出るため、塗装室内の汚れがひどく、掃除の手間も多かった。

<改善後>

塗料（有機溶剤）の使用量が劇的に減った（従来比約-40%）。塗装粉が減って掃除の手間が減ったほか、塗装面の品質も向上した。

エアタンクの増設



<従来の課題>

コンプレッサのタンク容量が小さいため、エアの消費が重くなって大量に使用した際に、頻繁にON-OFFを繰り返したり、圧力不足になったりしていた。

<改善後>

コンプレッサの起動回数が減り、空気圧も安定するようになった。（写真とは別のコンプレッサに接続している）

専用通い箱の製作



<従来の課題>

外注先との部品の行き来の際に、箱と緩衝材をその都度準備するので、手間がかかった。また、緩衝材として使用した材木や段ボールの廃棄量も多かった。

<改善後>

部品ごとに専用の通い箱と緩衝材を用意した。梱包作業時間が短縮したほか、緩衝材の廃棄量も激減した。

ケーブル保管リールのローラ台製作



<従来の課題>

ケーブルを保管しているリールが自由に回転しないものもあり、引き出すのが手間だった。

<改善後>

全てのリールについて、ローラ付きの台を製作し、並べて設置した。スムーズに回転するので、ケーブルの切り出し作業が容易になった。特に大型のリールは重量があるため、格段に扱いやすくなった。

太陽光発電

発電量：32,564 kWh 二酸化炭素換算：13,937 kg-CO₂ 金額：1,024 千円（税抜）

環境関連法規等の順守状況

環境関連法規等の順守状況について評価の結果、下表の通り順守されています。
また、関係当局からの違反の指摘、訴訟等もありませんでした。

法規制等の名称	該当する事項	確認内容	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物(廃油等)の処理	契約書, 許可証, マニフェスト	○
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則	SDS, 特殊健康診断記録 作業環境測定記録	○
消防法	危険物取扱量・保管量の把握	購入記録, 現場確認	○
PRTR法	対象化学物質の取扱量の把握	購入記録	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品の簡易点検	点検票	○

代表者による全体の評価と見直し

【環境方針・目標・活動計画等の改訂】

環境方針・目標の改訂の必要はありません。

活動計画の目標値について、有機溶剤の使用量は、今年度の実績を踏まえて従来の計画よりも大きく引き下げます。それ以外については計画通り一定の割合で引き下げることとします。

【総括】

中国の景気減速に伴う、プラスチック業界全体の業績低迷が、当社にも大きく影響しています。大型機種種の受注が多かったため、売上高は例年並みでしたが、出荷台数はコロナショックの2020年レベルでした。

欧州ではELV（廃車車両）指令により、新車のプラスチック材料として、20%以上の再生材使用が義務化されます（2025年2月現在）。国内でもこれに追従するため、廃車などのプラスチックをリサイクルする動きがあり、当社には追い風となっています。

また、北米では関税引き上げに向けて、両政府間の交渉が継続中です（2025年5月現在）。北米向けの輸出が、総売上約20%を占めている当社にとって、その影響は免れません。

このように、世界経済・情勢の変化が大きく、以前にも増して先が見通せないような状況です。当社の自助努力だけでは、それらを解決したり、好転させたりできない大きな流れです。当社にできることは、そう大きくはありませんが、プラスチックのリサイクルに関わる一企業として、地道な事業活動を継続し、結果的に環境保全の一助となりえればと考えております。

